


岐阜県嚥下障害研究会
モグモグ通信
 No. 33 (2019. 1 発行)

2月に小児領域研修会(症例検討)、3月に成人・高齢者領域研修会(症例検討、講演)を予定しています。奮ってご参加ください。

発行所：岐阜県嚥下障害研究会
 事務局：土岐市立総合病院 ST 室



歯科衛生士の口腔ケアの役割



多治見口腔ケアグループ
 はねっと
 代表 栗木みゆき

岐阜県嚥下障害研究会に長い間関わらせていただきました。その中で歯科衛生士として

何を提供できたか、何が提供できるかを考えてみました。歯科衛生士として訪問で口腔ケアを開始した当初は、施設では「歯磨きならしているよ」在宅では「ヘルパーさんがしている」などという返事で、歯科衛生士が行う口腔ケアが理解されていませんでした。そのような状況の中、歯科衛生士の口腔ケアは単なる歯磨きではないことを他の職種の方たちに理解してもらうことが非常に大切でした。

そのような時に豊島会長の提案で、嚥下障害研究会学術大会において4年間各会場で歯科衛生士による口腔ケアコーナーをさせていただきました。このコーナーは毎回多くの参加があり他職種に歯科衛生士の役割を理解していただく非常に大きなきっかけになりました。また、歯科衛生士も他職種との繋がりができたのではないのでしょうか。そして、その時使用した口腔ケアの手順などのマニュアル作りを「多治見口腔ケアグループはねっと」でさせてもらったことで、自分たちの口腔ケアをまとめるきっかけになりました。現在では訪問での口腔ケアの依頼が増えています。嚥下障害の多くが口腔期に問題があることが多く、このことが多治見に関わらず全国的に見ても歯科への依頼が増えているのではと思います。私は多くの患者さんに関わっていくうちに、誤嚥性肺炎の予防だけでなく、口腔機能の変化にも気が

付かされることが多くあり、口腔機能を考えた口腔ケアをきちんと行うとそれが摂食嚥下訓練の間接訓練になるのではと考えるようになりました。また、色々医療や福祉の現場を見る機会が多くなってくると、そこでの問題点がわかってきました、口腔ケアを取り入れているところは多くなって、毎日のマニュアルの中で実施はしているのですが、ケアが出来ているのとは違うという点です。

このようなことから、これからは口腔ケアの持つ意味を掘り下げてもらうことが必要と考え、以下の3点を挙げてみました。

- ① 嚥下障害の方たちへのリスクを考えた安全な口腔ケア。
- ② 口腔ケアをしているから口腔ケアができていくへの意識の変換。
- ③ 口腔機能を高める口腔マッサージを取り入れた口腔ケア。

このことを実現していくには他職種との連携が絶対条件です。口腔ケアの困難症例もあり難しいケースもありますが、毎日のことです。歯科衛生士だけで口腔ケアを頑張っても改善しないケースも多く連携の必要性を強く思います。

この研究会は多くの職種が参加しています。摂食嚥下障害の問題を考えると、より多くの職種が連携し、それぞれが専門性を生かしてこの問題に対峙することが大切だと考え、これからも一会員として研究会に関わり、勉強させていただきます。



小児領域摂食指導 講習会レポート

何年たっても成長する！

岐阜地域児童発達支援センター
ポッポの家
言語聴覚士：河合めぐみ

0歳～就学前の摂食・嚥下に携わる私には、今回のテーマ【「発達期の“食べる”を支える」～摂食嚥下の評価と支援～】は、まさに聞きたいテーマ、とても楽しみに参加しました。

講師の田村先生は、豊富な臨床経験をもとに、とても熱心に、丁寧にお話しをしてくださいました。午前中は、発達期の正常発達、障害別の見方などの講義、午後は先生の手技を実際に見せていただきながらペアで実践ワークを行いました。バンガード法など、普段実施している手技も要点を丁寧に解説いただくと、「自分がそこまで意識して手技を行っていたか？」と反省しきりでした。また、食事介助もペアで行いました。目をつぶって水を飲む、ヨーグルトやお菓子を食べました。介助される側を体験してみると、食材や介助のタイミングにより「今は食べやすかった」「ちょっと食べにくい」など、人から口に食べ物が入れられ、それを食べる難しさを実感しました。

今回の研修では、短い時間の中で、臨床に取り組む者として忘れてはいけない心構えも教えていただきました。「迷った時は、自身で試してみる」「正常を知る」「感性を鍛える」は印象的で、何より「子どもは何年たっても必ず成長する」と田村先生の実感のこもった言葉を聞き、私も目の前の子どもの成長を信じ、真摯に取り組もうと気持ちを新たにしました。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えていただき、田村先生、研究会のスタッフの方々に心よりお礼を申し上げます。

日時：平成30年8月19日（日）

9時30分～16時

会場：朝日大学 1号館 第4大講義室

講演：「発達期の“食べる”を支える」

～摂食嚥下の評価と支援～

講師：田村 文誉先生 歯科医師

日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック 科長

通算第52回 小児領域研修会レポート

小児研修会に参加して

一宮医療療育センター
リハビリテーション科
言語聴覚士 山田 愛弓

今回、静岡県立こども病院で作業療法士をされています鴨下賢一先生による苦手が『できる』に変わる！発達の気になる子への生活動作の支援～食事に関わる生活動作の基礎となる力について学ぶ～についての講義を聴講させて頂きました。

講義では、食事に関する生活動作について生活習慣・環境対応を適切にすることを始め、鉛筆の持ち方とスプーン・箸動作の関係性や不器用さの要因、感覚の問題、手指機能評価について等、ポイントを絞り説明して頂きました。

私は今回の講義を受けるまでしつけ箸は、どのお子さんにも有効な効果をもたらすと思っていました。しかし場合によっては、箸動作獲得の妨げになることがあるという事を聞き驚きました。また講義の中で表や写真、訓練前後の映像などを交えながら進めて頂き、普段作業療法士さんに任せきりになっているところがあり知識が曖昧だと感じていた部分を見直しながら学ぶことができました。

また、固定具を身近な物品を用いて実際に作製できたことでより臨床に直結しやすく、さまざまな職種の方々とお互いに確認しながら取り組むことができました。現在、作成した固定具は当センターでも応用しながら活用させて頂いております。

今回の小児研修会を通し、今後も幅広い知識を持ち、多職種で連携しお子様の成長に繋げていけるよう日々の臨床に努めていきたいと思いました。

最後になりましたが、鴨下先生、研修会の運営に携わる皆様、本当にありがとうございました。



日 時：平成30年12月8日（土）
 13:45～17:15
 会 場：朝日大学 1号館 第4大講義室
 テーマ：「苦手が『できる』にかわる！
 発達的气になる子への生活動作の支援」
 ～食事に関わる生活動作の基礎
 となる力について学ぶ～
 講 師：鴨下 賢一先生 作業療法士
 静岡県立こども病院
 日本発達系作業療法学会 副会長

岐阜県嚥下障害研究会新役員
 任期 平成31年4月1日～平成34年3月31日

| | | |
|-----|--------|---|
| 会 長 | 豊島 義哉 | 国立病院機構 東名古屋病院 リハビリテーション部 総括療法士長／言語聴覚士長 かも ことばとこころの相談室 代表 |
| 副会長 | 玄 景華 | 朝日大学 歯学部 口腔病態医療学講座障害者歯科学分野 教授 歯科医師 |
| 理 事 | 加藤 孝憲 | 土岐市立総合病院 リハビリテーション部 主任 言語聴覚士 |
| | 林 哲次 | 岐阜県歯科医師会 地域医療委員会 副委員長 歯科医師 |
| | 柴田 一浩 | 岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター 作業・言語療法係長 言語聴覚士 |
| | 安田 香実 | 各務原市福祉の里 支援課長 言語聴覚士 |
| | 川口 千治 | 朝日大学医科歯科医療センター 歯科衛生士長 |
| | 大埜間 勉 | おおのま歯科クリニック 歯科医師 |
| | 長谷川 信乃 | 朝日大学 歯学部口腔構造機能発育学講座小児歯科学分野 講師 歯科医師 |
| | 渡辺 真実子 | 太田病院 栄養科 科長 管理栄養士 |
| | 田中 さとみ | 岐阜県総合医療センター 看護師長 摂食・嚥下障害看護認定看護師 |
| | 阿部 忍 | サンバレーかかみ野 リハビリテーション部リーダー 言語聴覚士 |
| | 品川 康一郎 | 多治見市民病院 リハビリテーション課 主任 言語聴覚士 |
| | 安田 順一 | 朝日大学 歯学部口腔病態医療学講座障害者歯科学分野 准教授 歯科医師 |
| | 二村 洋代 | 岐阜県立多治見病院 主任看護師 摂食・嚥下障害看護認定看護師 |
| | 高田 亜希子 | 岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校 教諭 |
| | 伊藤 ひとみ | 岐阜県歯科衛生士会 副会長 特別養護老人ホームほほえみ福寿の家 歯科衛生士 |
| | 西田 里美 | 朝日大学歯科衛生士専門学校 非常勤講師 歯科衛生士 |
| | 谷口 裕重 | 朝日大学 歯学部口腔病態医療学講座 障害者歯科学分野 准教授 歯科医師 |
| | 吉田 明永 | 岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校 教諭 |
| 監 事 | 加藤 哲 | かとうこども歯科クリニック 歯科医師 |
| | 松井 司 | 岐阜県立下呂温泉病院 看護師 摂食・嚥下障害看護認定看護師 |

第21回学術講演会 岐阜・西濃大会 30.11.25
テーマ「生活に寄り添った食支援の取り組み」



館村 卓先生



渡邊 雄介先生



土屋 邦洋先生

《午前》講演① 3つのキーワードで考える摂食嚥下障害への対応
 講師 館村 卓先生 一般社団法人 TOUCH 代表理事・(元)大阪大学准教授・歯科医師

《午後》講演② 大人が変われば子どもは変わる 作業療法士の視点からみる食支援～姿勢と食事指導～
 講師 渡邊 雄介先生 一般社団法人ネクストドア 代表理事・作業療法士

実践報告 総合在宅医療クリニックでの食支援の取り組み
 講師 土屋 邦洋先生 医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック 副院長 医師



**第21回 岐阜県嚥下障害研究会
学術講演会 (岐阜・西濃大会)**

**「生活に寄り添った
食支援の取り組み」**

日時
 平成30年11月25日(日)
 9時30分～16時



場所
 朝日大学6号館
 2階 6203
 〒501-0296
 岐阜県瑞穂市穂積185-1

10:00～講演Ⅰ
 3つのキーワードで考える
 摂食嚥下障害への対応
 館村 卓先生 (歯科医師)
 (一社) TOUCH代表理事・(元)大阪大学准教授

13:30～講演Ⅱ
 作業療法士の視点からみる食支援
 ～姿勢と食事動作～
 渡邊 雄介先生 (作業療法士)
 (一社) ネクストドア代表理事

15:15～実践報告
 総合在宅医療クリニックでの
 食支援の取り組み
 土屋 邦洋先生 (医師)
 医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック 副院長

参加費
 岐阜県嚥下障害研究会
 会員 2,000円
 非会員 3,000円
 学生 無料

申込み受付
 FAX 058-370-7511
 各務原市福祉の里
 安田香実

当日申込みOK

問い合わせ
 岐阜県嚥下障害研究会
<http://ghu-pad.com/index.html>



安田順一大会長



次回大会長挨拶

— 編集後記 — 第21回学術講演会におきましては、岐阜県をはじめ関係団体からのご後援を賜り深く感謝申し上げます。
 4月より事務局が岐阜県加茂郡八百津町八百津 1286-7 岐阜県嚥下障害研究会へ移転いたします。
 問い合わせ、学術講演会、研修会等の情報は研究会ホームページをご利用ください。(TOYO)